

日 時	令和6年5月19日（日）午後1時30分～午後3時15分
場 所	北谷町コミュニティセンター
出席者	22名

Q：質問 A：回答

1. 道路の補修について

Q：かつやま子どもの村小中学校までの県道の状態が悪い。科学技術学校の生徒が自転車のトレーニングで通っているが、北谷地区の道は国道も県道もガタガタで悪い。どうか対応してほしい。

A：市道については再度点検させていただく。国道・県道については、現地確認をして土木と話したいと思う。

2. 東山いこいの森キャンプ場について

Q：東山いこいの森キャンプ場の再開はどのような状況か。子どもたちの体力づくりや自然体験の場所として、いち早く開放していただきたい。

A：東山いこいの森は、準備をしている事業者があるが、現在能登半島地震の関係で運営再開が延びている状況である。活用したい気持ちは十分持っているので、少しお時間をいただきたい。

3. 新中学校のグラウンドについて

Q：新中学校では、グラウンドで野球はできるか。

A：野球はできる。長山公園のグラウンドも利用できるように形で現在準備している。

4. 8,000人の反対署名について

Q：8,000人の反対署名運動があったが、市長の胸の内はどうか。

A：皆さんの署名はしっかりと受け取っている。中学校再編については20年前から積み上げてきた話であり、これまで様々な選択肢がある中、市民の意見を聞きながら現在の計画を進めてきた。給食や地下道の件など、修正を重ねながら提案して、最終的に現在の勝山高校の敷地内に中学校が開校するという理解をいただいたことは本当に良かったと思っている。最後まで反対意見はあると思うが、一人でも多くの賛同を得ながらしっかりとしたものを作っていきたいと考えている。

5. 新中学校の建設費用について

Q：地下横断歩道を作るのに莫大な費用がかかると聞いたが、そのお金はどこから出てくるのか。

A：文科省の中学校建設のための補助金や、国土交通省の補助金、過疎債などを入れながら、市の持ち出しをできるだけ少なくするような形で進めている。このために皆さんからの税金を上げることはない。

6. 現中学校の活用について

Q：現在の3中学校については、今後どのように考えているのか。

A：基本的には全て現状復旧して地権者に返す、あるいは売却して民間で使っていただくのがベストだと思っている。しかし実際に、更地に戻すのは難しいため、建物を含め他の用途で活用できないか様々な選択肢を考えている。公共施設としての活用ではなく基本的に民間活用で考えていきたい。

7. 通信インフラの整備について

Q：現在北谷地区はADSLだが、NTTは順次ADSLを廃止して光の方に順次変えている。山村の地区の通信インフラについて、市としてどのように考えているか。

A：新しく回線を引くのは難しいと思う。光にこだわらず、無線系の活用は、災害時も含めて重要だと考えている。さらに災害時には衛星系の通信の活用も考えながら通信インフラを維持していきたいと思っている。

8. 恐竜博物館周辺の渋滞対策について

Q：5月の連休に、恐竜博物館周辺の混雑時に北谷方面に無理やり抜けてくる車があった。できれば交通指導員を配置して、旧道に誘導していただきたい。

A：恐竜博物館に大勢来ていただくのはうれしいが、渋滞への対応が課題になっている。特に安全面に影響を与えるような渋滞は避けたいので、道の拡幅の他に、時間制限や開館時間の延長、強制的なパーク＆ライドなど色んな方法を考えたいと思っている。

9. コミュニティバスのフルデマンド化について

Q：コミュニティバスが令和9年にフルデマンドになると聞いているが、北谷線を前倒しでデマンド化できないか。中尾にインド人が3人生活しているが、市内に買い物に行くとコミュニティバスでは時間的に利用しづらい現状がある。

A：デマンド化についてはこのコミュニティセンター建設時に検討したが、諸条件が整わず本日に至る。おそらく今から北谷だけでデマンドを始めるより、全体のデマンドをした方が効率や使い勝手が良いと思う。交通体系の見直しは特殊な要因もあり、早くとも令和8年10月までお時間をいただきたい。

10. 山林の管理について（1）

Q：山林について、自分の山の地境は把握しているが、子どもは場所も知らない。村でも草刈りをして、今後山林はどうなるのか心配している。ほとんどの人が村から出てしまい分からない状態である。子どもにどのように伝えていけばいいのか。所有者や地境が分からない山林について、市が関与していただければと思う。

A：満足するお答えはできないと思う。勝山市の8割が山林で、市有林もあれば各生産森林組合が管理しているところもあれば、国が管理しているところもある。行政が個人の財産の地境について管理することは難しい。山は山間部の集落にとって生活の大きな糧であったが、戦後はそうではなくなった。一方、森林環境譲与税の仕組みやJクレジット制度の取組みも始まり、山林に全く関係のなかった若者が自発型林業をしながら山との共生をするといった動きも出てきた。市としても財産である山が活きるような方策を考えていきたい。

12. 山林の管理について（2）

Q：新聞で、町が個人の山林を買い上げて活用するという記事を見た。市も取組みを検討していただけないか。

A：市有林の整備をしたところで、現在JクレジットでCO2の削減効果を売るといような仕組みを始める。こうしたシステムを使って、少しでもお金が還元できないかとも考えている。森林愛護組合の皆さんには昨年からの森林環境譲与税を一部配分している。山を集落で買うあるいは森林組合で買うこともありだと思う。市として土地を買うことは難しいが、一つのご提案としてお聞きしたい。

13. サルに関する獣害対策について

Q：イノシシは電気線で何とか対応しているが、サルについては賢いので、電気線をはじめ人間が作る対策は効かない。20～30匹の集団で来ると畑も全滅してしまう。総数を減らすなど法的にできる事があればお願いしたい。

A：獣害対策は大切な課題だと認識している。サル対策は以前はほとんどやっていなかったが、5年ほど前に檻を購入した。サルの群れの動きは把握できており、成果は上がっていないが、猟友会に協力いただき捕獲の技術をスキルアップしながら、群れが分散しないような捕獲の仕方を挑戦している。対策にお時間をいただきたいのと同時に情報の提供などもいただきたい。

14. クマに関する獣害対策について

Q：最近新聞の中でクマの「管理計画」というものが出されたと読んだ。秋田県や山形県など東北地方で人身被害があったからだと思っていたが、福井県ではどうなのか。

A：クマについては私どもも何度も歯がゆい思いをしている。クマの位置づけが、保護すべきものから必要に応じて減らしていく必要のあるものというものになった。それは全国的なものであり東北に限られたものではない。クマの被害は命に関わることなので、市としても新しいルールに沿って猟友会と対応していきたい。

15. 区長要望について

Q：市長要望があると思うが、申し送りはどのような経過をたどっているのかお聞きしたい。毎年人事異動があることは承知しているが、毎年同じことを繰り返し要望することは無駄ではないかと思う。

A：地区に対しなかなか要望にお応えできないことについてはお詫びしたい。申し送りについては、庁内の各課では要望に関わらず様々な事務の引継ぎを行っている。要望事項の中でも内容によって対応している。

16. 取立山のトイレについて

Q：冬に取立山に登山者があるが、国道が車でいっぱいになる。もう少し広めの駐車場とトイレがあると良いと思う。

A：トイレなどは維持管理の問題もある。一度地元とご相談したい。

17. ドローンの活用について

Q：北谷町コミュニティセンターは防災の拠点でもあるので、今年、道路が寸断された場合にはドローンがあると良いという話になり要望した。

A：ドローンを活用するのは良いと思う。にこにこ交付金も含めて一度相談したい。

18. 勝山インターについて

Q：中部縦貫道が2年後に県内全通することで、多くのお客様が勝山に来ると思うが、今の勝山インターは勝山北部の方で入ってきて、市内の方にはなかなかアクセスできないと思う。大野インターまでの間に勝山第二インターを作り、ダイレクトに市内に入れるようにしてはどうか。

A：勝山に2つのインターチェンジがあるのは良いと思うが、勝山インターと大野のインターの距離感から考えると、新しいインターチェンジができる可能性はまずないと思う。まちなかが寂しいという話は、インターチェンジだけの問題ではない。まちなか誘客が以前からうまくいっていないが、現時点では、例えばキッチンカーなどの事業者が道の駅や恐竜博物館に赴き事業展開をすることは、まちなか誘客よりは効率的だと思っている。まちなか誘客を引き続き取り組みながら、市内の事業者の収益が上がるような方法も考えていきたい。